

令和 5 年度 第 3 回守山市健康づくり推進協議会

日時：令和 5 年 11 月 10 日（金）

午後 2 時から午後 3 時 15 分まで

場所：守山市役所 多目的ホール

1 出欠状況

(1) 出席者（9名）

岡村会長（リモートによる出席）、福田副会長、間下委員、三品委員、富田委員、小林委員、樋上委員、遠藤委員、山本委員

(2) 欠席者（6名）

大谷委員、朝見委員、藤本委員、中井委員、藤澤委員、北野委員

(3) 事務局（10名）

健康福祉部 高橋理事、池田次長

すこやか生活課 堀江課長、川中参事、金沢係長、百田主査、竹村保健師、清水歯科衛生士、岩波

株式会社地域計画建築研究所 渡邊氏

(4) 傍聴者 なし

2 内容

(1) 開会

(2) 協議事項

ア 第 3 次健康もりやま 21（案）について

発言者	内容
事務局	資料 1 について説明（資料 1、別紙 1・3、別紙 4 前半）
間下委員	C O P D 検診受診は病院への斡旋までするのか。
事務局	受診対象の方に市から案内をして受診をしてもらうようにしていく。
福田副会長	受診を通じて禁煙指導などを行うこととなる。
三品委員	ライフステージごとに分かれて見やすくなっている。地域の観点でいうと、育ち、みのりの世代と接することは多いが、真ん中であるはたらき世代と接する機会が少ないので連携が必要となるだろう。

	みのりの世代の取組は自治会でも重点的にやっていく必要がある。
富田委員	わかりやすくまとめていただいた。先日、中学校のPTAに出席した時に地域での回覧板は見ないという話をされている人もいた。各家庭で配布されるものは流し読みになる。一方で、ネットやスマートフォンの情報は見ることであった。世代にあった情報提供が必要である。
小林委員	各世代を網羅してわかりやすいものを作っていた。育ちの世代について、いじめの問題を取り上げられている。資料4の育ちの世代の⑦について、具体的にどこまで踏み込んで対応できるのか。主体的に相談できる子どもたちなら問題ないが、そこに踏み込めない子どもたちをどのようにケアするのか、具体的にどのように体制を作るのかが気になっている。
事務局	すこやか生活課では、SOSの出し方教育を中学校1年生の授業で実施している。困ったり悩んだりした時に信頼できる大人に相談しようと教えている。また、その授業を通じて、相談先の情報提供をしている。
福田副会長	すこやか生活課での取組のほかに、教育委員会ではスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの相談体制を整備し、相談し易い環境整備に努めている。
樋上委員	働いている立場からすると、こういう健康に関する目標設定を知らないので、どのように共有するのかが課題である。アプリやイベントなどでの情報提供があると良いのかもしれない。 商工会としては健康イベント実施時などに声かけをしていただければ、協力したい。 先日、滋賀大発のベンチャー企業などと一緒に髪の毛を用いたストレスチェックを行った。ストレスの状況が見える化され、そのフィードバックにあわせてストレス解消の情報提供などわかりやすかつた。
遠藤委員	表形式で見やすい計画となっている。ライフステージ別にみて、目標をめざして取り組んでいくことになるが、項目が多いので絞ってやっていくことになる。 また、健康づくりは自分で継続することは難しい。継続を支援するような、例えばスマホにデータを入力すると健康状態を評価してもらえるなど、アドバイスをもらえる仕組みがあると良い。
事務局	個人のみで健康づくりを進めていくのは難しいと思う。第3次計画

	では、健康づくりのための環境づくりも重要だと考えている。例えば、スマホのアプリで BIWA-TEKU を推進しており、歩数などのデータの他に、健(検)診受診情報も登録すれば自分の健康管理ができ、活用していただいて推進してもらえばと考えている。
山本委員	理念、方針に基づき、分野とライフステージが交差していて、わかりやすくなっています。どこを目指して、どこに働きかけるのかも伝わりやすくなっています。 働き盛り世代への働きかけは難しいところもある。市内企業との連携は保健所の職域連携の中で一緒にやっていきたい。 推進体制は各分野の細かいところを見ていくのは難しさもあるだろう。それぞれの協議会、部会で進めてきたので、それぞれの分野で丁寧に見ていく体制も考えてもらいたい。
福田副会長	指標の現状値である野菜摂取量の 202 グラム、塩分摂取量の 11.6 グラムは、どれくらいの量なのか具体的にわかりづらい。この数値はどういうに確認したのか。
事務局	現状値は県が実施した滋賀県健康・栄養マップ調査（守山市）をもとに抽出したものをお掲載している。
福田副会長	グラム数の標記に並列して、小鉢 1 皿などの具体的な例示を記載した方が市民は分かり易い。 また、塩分指標の 6 グラムはかなりの薄味の印象である。市民に伝わることが重要なので、グラム数よりは分かりやすい物差しを使って具体的に書いていただきたい。
岡村会長	ライフステージに合わせて目標値を作り、無理な目標設定をしないということで整理されていると感じた。 いくつかご意見があったが、別紙 2 のライフステージと分野ごとに何をするのかを記載されている。作った時に計画を公開して市民の方に出していくことになるが、市民は数字目標では動かない。市民にとって具体的に何をするかを示すことが大事である。 中身に問題はないが、周知の仕方を工夫いただきたい。市民にわかりやすいことが大事である。
福田副会長	他に質問が無ければ、計画の後半の説明をお願いする。
事務局	資料別紙 4（後半）について説明
小林委員	行政の取組について、家族連れで参加いただけるようなイベントを設け、広報でも開催についてアナウンスをしている。小学生以下の子どもも、ファミリーマラソン、正月明けの成人祝賀駅伝、スポーツ

	フェスティバル、ユニバーサルスポーツなど、誰でもいつでもどこでも参加できるイベントを開催していきたい。事前の広報をしっかりしていただきて、市民の方がなるべく多く参加できるようにしていきたい。
事務局	先日のファミリーウォークラリーにスポーツ振興課・スポーツ推進員の方とともに参加させていただき、600名超える市民の参加があり、非常に有意義な機会であった。
樋上委員	モリイチスタンプラリーに商工会議所の青年部としても協力している。スマートフォンアプリの BIWA-TEKU は知らなかつた。これをしてことで健（検）診の案内、特典として健（検）診の中でプラスがあるなどしていくと利用が広められるのではないか。ウォーキングマップは商工会議所や守山市観光物産協会でもマップを作っているので連携してはどうか。
福田副会長	資料4の70ページにスマートライフプロジェクトへの参画が記載されている。もう少し詳しく説明をお願いしたい。
事務局	厚生労働省が旗振り役をし、企業や団体などの趣旨賛同した事業主が参画し、健康づくりを進めていくための取組である。 国の健康づくりの計画にもこのスマートライフプロジェクトへの参画企業数を目標に掲げている。
樋上委員	周囲の企業でも関心が低いので情報提供、発信をお願いしたい。
遠藤委員	各企業に啓発できるような仕組みをお願いしたい。自己啓発は難しい。後押しをお願いしたい。
山本委員	概要版について、開いたところでは行動目標を掲げているので、自分が何をしたら良いかわかりやすい。こういう取組をしていることをどこで知ることができるのか環境づくりが重要。企業との連携は項目として示されているので具体的にどこまで取組ができるかである。
富田委員	どの項目にも健康推進員が関わっている。地域ですごく活動しているが、成り手不足となっている。自身も10年ぐらい活動したが、その時は楽しく働かせてもらった。報酬は少額ではあるが、活動内容等を踏まえるともう少し行政でお金をつけてくれるとありがたい。自治会の福祉新聞を民生委員が自分達で作成している。そこに活用できるデータ、情報などを行政から提供いただけすると助かる。最近ではインフルエンザの予防接種等について案内をした。
福田副会長	民生委員、自治会と連携していただきたい。健康推進員の報酬は少

	ないのか。
事務局	報酬は個人に支払われ、一人当たり年間 5,000 円、協議会へは交付金として、一人当たり年間 5,000 円を支払っている。
三品委員	<p>個人的に健康増進を継続していくことは難しい。</p> <p>自治会では、毎週数十通の回覧が各家庭に回るので目に留まらないことが多い。大事なものは他の回覧と一緒にせずに、個別に回覧するなど工夫をしている。</p> <p>また、今回の計画でライフステージ別に取組内容は明らかになった。今後はこの計画が推進できるように、各団体との連携方法を検討いただきたい。</p> <p>サロンとの関わり、食育の話、健康推進員、福祉協力員、どう連携できるのか。普及啓発の材料を準備いただけたら地域で啓発を行える。</p>
福田副会長	自治会では、啓発資材などを配布するときに以前に市から提供された情報を独自に加工し、提供している場合もある。市は自治会がスムーズに情報提供できるよう、連係して欲しい。
間下委員	<p>BIWA-TEKU について登録者数を把握していると思うが、運動、スポーツ、レシピの情報発信などは守山市民向けにやっているのか。プッシュ通知などはないのか。</p> <p>ゲートキーパーはどこにいるのか。バッジなどがあつてわかるようになっているのか。</p>
事務局	<p>BIWA-TEKU の登録者数は把握している。市独自のプッシュ通知機能はないが、市町で情報提供できるところがあり、そこに様々な健康イベントや健（検）診案内を掲載している。</p> <p>ゲートキーパーについて、現在、バッジなどのようなものはないが、同様の意見を自殺対策連絡協議会でも頂いており、今後検討ていきたい。</p>
福田副会長	自殺対策が環境づくりの中に入り込んでいる。計画の推進で本協議会との連携と記載しているが、自殺対策協議会との連携の内容は具体的にどのようなことを考えているのか。
事務局	資料 4 の 80 ページに、個々の事例などは自殺対策協議会で検討し、こちらの健康づくりの委員会では自殺対策で検討いただいたものを報告すると位置づけている。
岡村会長	食品ロスの目標が 72 ページに掲載されているが、基準にしたものとは何か。

	現状値の 14.6%を目標値である 50%にするのは難しい。目標設定を国に準じているとどこかに書いていた方がよい。注釈を付けておくと安全かと思う。他の箇所は過去の実績ベースになっているが、食品ロスは事業効果が見えづらくなるので気になった。
事務局	国の食育推進計画に準じているが、目標値については、ご意見を踏まえ再検討させていただく。
福田副会長	他にはないか。次年度以降もこの計画の進捗管理を本協議会で行うことになる。 別紙4の 75 ページに推進体制を記載している。自殺対策については自殺対策連絡協議会で協議し結果を出す。協議結果は必要に応じて健康づくり推進協議会に報告する仕組みを考えている。この仕組みについてご意見をお願いしたい。
富田委員	特に問題ないと考えている。
三品委員	特に問題ないと考えている。
間下委員	特に問題ないと考えている。
小林委員	専門性の高い内容になると思うので部会で検討いただければ問題ない。
遠藤委員	特に問題ないと考えている。
山本委員	特に問題ないと考えている。
岡村会長	機能的で良いと考えている。
三品委員	委員の設置要綱があるが、見直しがあるのか。第1条に「第2次健康もりやま」と記載されているが、今後10年間は「第3次健康もりやま」に基づくのではないか。
事務局	来年の4月には文言を修正した新しい設置要綱を作成する予定である。
岡村会長	健康日本21の策定委員をしており、国の案は5月に出した。 健康日本21の数値目標は理想値から現実的なものなどが混在しており、複雑化している。 市のレベルでは具体的に市民に何をするのかが重要であるので、ライフステージ別に分けた上で、どの施策に結び付けるかを考えて、市民に伝わるよう、周知することが大事である。 そのためには、市と関係団体が一丸となって進めていくことが大切であると考えている。

(3) 閉会